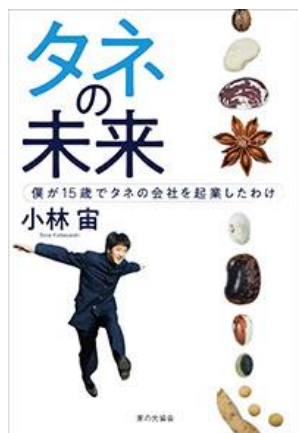


【緑地を楽しむ本】

『タネの未来—僕が15歳でタネの会社を起業したわけ』

小林 宙 著

家の光協会



この本、な・なんと・・・15歳で会社を立ち上げた男の子が書いているのだ！それも、消えていってしまうかもしれない日本の伝統野菜を守るために。

初めに、「もしもこの世界からタネが無くなってしまったら」という問題提起がある。そんなことあるわけないでしょ、と思

っていたのだが。実は私たちが食べている植物はかなり特殊なものなのだそう。確かに、いつもおいしい野菜を食べているが、これは気の遠くなるような歳月を経て、おいしい性質を固定してきた野菜なのだ。そしてそのおいしさを維持向上させるために F1 品種、遺伝子組み換え

品種と、どんどん新しい技術が導入されている。その蔭で、私たちが食べている野菜の種類はどんどん減っている。かつては3万種ほどもあった食用作物のタネが、現在日常的に食しているのは120種ほどに減ってきているとか。544種あったキャベツは28種にアスパラガスは46品種からたった1品種になってきているらしい。そのうえ自分で野菜を育てて種を採取してまた次世代を作るといってごく普通の行為もできなくなる方向に社会は向かおうとしている・・・現実を知って恐ろしくなった。

著者はそのような危機的な状況をなんとかしようと、日本各地の伝統野菜の種をさがしては流通させるという会社を始めた。そんな若者がいる・・・日本の未来に希望を感じた。

(小川)